

8月14日

No(1)

六年四組 番名前(吉岡愛衣)

身近に起こる土砂災害の危険

吉岡 愛衣

今日未明から昼にかけて、大雨特別警報

が発表されました。広はんにて土砂崩れも起

き、命の危険があります。

というテレビアナウンサーの声を聞き、私

はぼーっとテレビを眺めました。それを聞い

た私の率直な感想は、土砂災害が危険なこと

は知っていたけれど、ただ土砂が崩れてくる

だけなら山からはなれればいい、程度の軽い

ものでした。しかし、私が見ていたテレビに

は、私の想像を超えた映像が映し出されてい

ました。

その映像の中では、まるで森を切り取った

きたかのような大木や大量の砂が泥水と一緒

に押し寄せて来ました。土砂を含んだ水が山

からはなれた家の屋根までもつかけています。

今まで、地震・津波や地球環境の悪化の怖

さは学校でも習い、土砂災害のことも正しく

知っていたつもりでしたが、自分で思っていたい

るより土砂災害の危険性については知っています。また、過去の被害について調べてみました。すると、まず土砂災害は私がおもっていたよりうにせまいはんいではなく、広はんいにわたって起き、道路などの交通網が一度に被害を受け、受けとれまうという事が分かりました。さらに調べてみると、土砂災害は大きく分けて「地すべり」「土石流」「がけ崩れ」の三つのタイプがあるようです。

地すべりは山の斜面の一部、または全体が塊のまま下に向かって動き、土の量が多いため、家や畑に大きな被害を及ぼすのが特徴です。

土石流は、土砂、石、流木などが水と一緒に一気に流れ、時速二十キロメートルから四十キロメートルで進み、家などを破壊します。がけ崩れは山のがけなどの土砂が雨水でゆるみ、崩れ落ちます。短時間で落下し、家の近くで発生すると人命に危険を及ぼします。

六年四組 番名前(吉岡愛衣)

No(3)

月 日

この三つの土砂災害が原因となり昭和四十二年に起こった広島県の大雨と土砂災害で死者百五十九名という被害が出てしまっています。しかし、調べる中で見つけたのは、土砂災害の被害や危険だけではありません。ハザードマップを確かめ、家族や友達との待ち合わせ場所を確認したり、家では出入り口に物を置かないようにしたり、対策をすれば被害も最小限におさえられます。

それでもやはり土砂災害による被害は出てしまいい、今も思うように生活できていない人達がいいます。

また小学生の自分ができることは少ないです。すが、今でも苦しんでいる人達の、ちよつども手助けになるように、募金など、私にできる事で協力していかたいなと思います。今更ちよつとの募金で何も変わらないう人もあるかもしれません。様々な人が協力すればき、と手助けになると思います。今年

六年 組 番名前

No(4)

月 日

の三月二十二日、電力じゅ給ひ、迫警報が発
 表された時、様々な人やお店で節電をし、予
 想外の停電などがなくて済みました。その時
 たくさんの人が協力すればできることがある
 のかとうれしくなりました。私だけが災害か
 正しい対策をし、土砂災害のようか災害か
 ら、私や周りの人の幸せが日々をみんなが守
 っていくきたいです。